

第3学年3組 国語科学習指導案

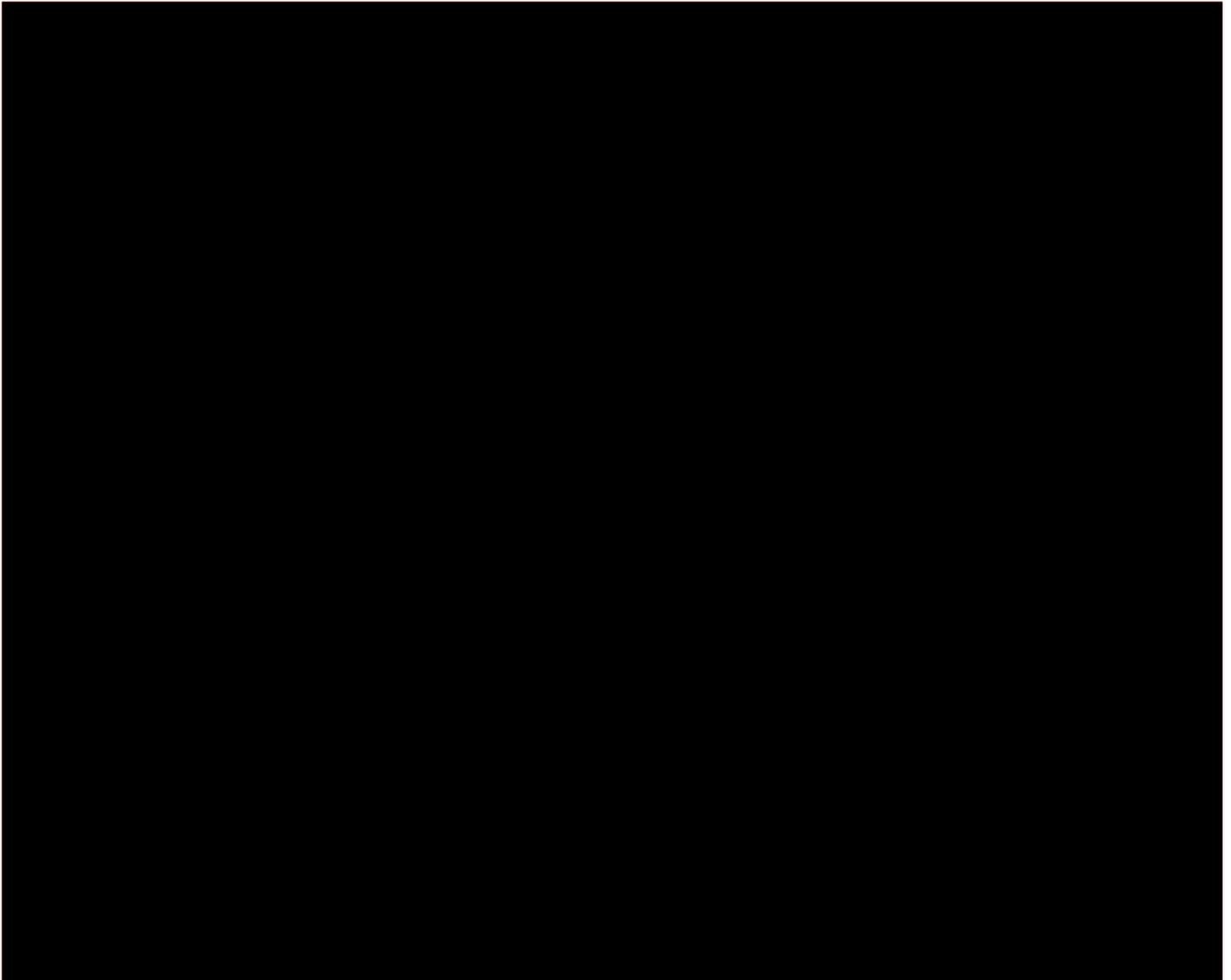
- 1 単元名 場面の様子を想像して読む
題材名 「モチモチの木」

- 2 単元について

- (1) 単元観

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年の「C読むこと」の目標「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」の指導事項ア「内容の中心や場面の様子がよくわかるように音読すること。」ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」を受けて設定されている。

「モチモチの木」は、はっきりと場面分けされており、できごとともシンプルでとらえやすい。その中で、登場人物である「豆太」の言動がわかりやすく描かれている。「豆太」の性格についても、語り手がわかりやすく語っているという特徴もある。最初の場面と最後の場面を比べて読むことで、登場人物の性格や、臆病だった豆太がじさまを助けるために、暗い夜道に一人で飛び出すに至った気持ちの変化について考え、より深くとらえることができる。



<考察>

読書に関する実態では、「読書が好き」と答えた児童は90%を超え、学校の図書室へも足を多く運んでいる。好きな本の種類では、4類（自然）や9類（文学）に答えが集まり、物語を読むことは好きな児童が多いことが伺えた。

単元に関する実態では、自分を犠牲にして家族や友人を助けようとしたことのある児童は70%を超え、ある程度豆太の気持ちが理解できるのではないかと推測できる。ただ、斎藤隆介の作品や「モチモチの木」についての認識は非常に低く、単元導入前から同氏の作品に触れさせ、その世界観を味わわせるような指導や環境作りが大切になってくると感じた。

(3) 指導観

仮説 1

学習材や発達段階に応じた言語活動を工夫すれば、正確に理解することができるだろう。

本題材は、わかりやすく場面わけされて展開している。場面の移り変わりの中で、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに想像して読むことができ、また冒頭場面から「全く、豆太ほどおくびょうなやつはない。」という書き出しで語り手の気持ちも多く語られている。主な登場人物は豆太とじさまであるが、モチモチの木はそのやりとりを全て見て知っていると考え、モチモチの木から見た豆太に対する気持ちを考えさせることで、児童の読み取りを深めたい。モチモチの木の切り絵を画用紙に貼り、その周りに各場面で考えたモチモチの木から見た豆太へのメッセージを書いた用紙を貼り足していく。そして、5の場面の学習が終了したときに、豆太の気持ちの変化が見て取れるようにし、それを「わたしのモチモチの木」として言語活動に位置づける。また、最後の時間には、大人になった豆太から、「モチモチの木」で心に残った場面の豆太へ手紙を書かせることで、優しさと勇気が伴った行動について改めて考えさせたい。

仮説 2

学習材と関連させた読書活動を取り入れていけば、進んで本を活用することができるだろう。

単元導入前から児童がいつでも斎藤隆介の作品を手にとることができるよう、教室に児童数分の著書を用意しておき、朝読書や休み時間に読むことができる環境作りをしておく。また、読書活動推進補助教員に斎藤隆介の作品「八郎」「花さき山」「三コ」「半日村」等を紹介していただき、斎藤隆介の物語の世界に触れさせる。並行読書でも登場人物の「優しさ」や「勇気」等の言葉や行動に着目し、一言感想とともに読書記録（読書メモ）を残して、作者の「モチモチの木」に込めた意図に迫りたい。また、今後の読書生活においても、人柄等の視点をもって読書をすることで相違点や共通点が見つけられ読書のおもしろさを味わえるように指導していきたい。

3 単元の見込み

<国語への関心・意欲・態度>

- ・場面の移り変わりに注意して、登場人物の気持ちの変化を読み取ろうとする。

<読むこと>

- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。
- ・文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

- ・登場人物の人柄や様子を表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、その語句を文の中で使うことができる。

4 指導計画（8時間扱い） 朝の読書タイム等で並行読書をしていく。

段階	時配	学習内容	◆指導・支援 ○評価方法・評価規準	形態
見出す	1	○「モチモチの木」を読んで登場人物を確認し、心に残った場面を感想として書き、紹介し合う。	◆主な登場人物を確認する。 ◆箇条書きでも良いこととし、思ったことを簡潔に書かせるようにする。 ○全文を読んだ感想と豆太の性格について、叙述をもとに考えを書いている。（ノート）	一斉
深める	5	1の場面から豆太やじさまがどんな人か考えよう。	◆豆太の会話文や語り手の地の文から、手がかりとなる言葉を見つけさせる。 ◆じさまについての叙述をおさえ、性格や豆太に対する思いを想像させる。 ○叙述をもとに豆太やじさまの性格を書いている。（カード）	個人 一斉 個人
		昼間と夜のモチモチの木に対する豆太の様子や気持ちの違いを考えよう。	◆手がかりとなる言葉に線を引かせ、昼間と夜の豆太の様子を比べながら読み取らせる。 ○昼間と夜のモチモチの木に対する豆太の様子や気持ちを比べながら書いている。（カード）	個人 一斉 個人
		モチモチの木に灯がともる話を聞いた豆太の様子や気持ちを考えよう。	◆今までの場面での豆太の性格や気持ちを思い起こさせる。 ◆手がかりとなる言葉に線を引きながら、気持ちを考えさせる。 ○じさまから、モチモチの木に灯がともる話を聞いた豆太の様子や気持ちを書いている。（カード）	個人 一斉 個人

	本時	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">医者を呼びに行く夜の、豆太の気持ちを考えよう。</p> <p>○医者を呼びに行く夜の豆太の気持ちのわかる叙述に線を引き、自分の考えをもつ。 ○自分で考えたことを発表し合い、医者を呼びに行く夜の豆太の気持ちを話し合う。 ○モチモチの木から見た、本時の豆太への気持ちを「わたしのモチモチの木」に書く。</p>	<p>◆手がかりとなる言葉に線を引きながら、気持ちを考えさせる。 ◆豆太の服装など、様子確かめてから考えさせる。モチモチの木に灯がともっている様子も想像させる。 ○寒くて、怖い夜道を走った豆太の様子や気持ちを書いている。(カード)</p>	個人 一斉 個人
		<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">5の場面を読み、豆太は勇気のある子どもといえるか考えよう。</p> <p>○豆太は何が変わったのか話し合う。 ○豆太は勇気のある子どもといえるのか話し合う。 ○モチモチの木から見た、本時の豆太への気持ちを「わたしのモチモチの木」に書き、豆太の全体的な人物像をとらえる。</p>	<p>◆前時の豆太の行動や、モチモチの木に灯がともっているのを見たときの豆太の気持ちを確認する。 ◆根拠となる叙述を示しながら、考えを話し合わせる。 ○1～4の場面と5の場面を比べ、豆太の性格について、感想を書いている。(カード)</p>	一斉 一斉 個人
まとめあげる	2	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">大人になった豆太から、「モチモチの木」で心に残った場面の豆太へ手紙を書こう。</p> <p>○大人になった豆太を想像して、大人の豆太の立場から子どもの頃の豆太への手紙を書く。 ○書いた手紙を紹介し合う。</p>	<p>◆「モチモチの木」を振り返り、臆病だった豆太がじさまのために勇気を出して灯がともったモチモチの木を見たことをおさえる。 ◆豆太の気持ちの移り変わりや、豆太と似たような体験、読んだ本等から、豆太がどのような大人になっていったのかを想像させる。 ○幼かった頃の豆太の経験を想像して大人になった豆太のある一日の手紙を書いている。(ワークシート)</p>	個人 一斉
		<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">斎藤隆介の作品の中から、豆太と似ている人物や場面を紹介し合おう。</p> <p>○豆太のように、優しさや勇気をもって献身的で自己犠牲を厭わない気持ちが感じられる登場人物や場面を紹介し合う。</p>	<p>◆紹介し合うことで、斎藤隆介の作品の特徴や込められた思いに気づき、読書の幅を広げさせる。 ◆読書活動推進補助教員に、学習の評価をしてもらい、励みとさせる。 ○読んだ本の紹介をし合いながら、登場人物の優しさや勇気を紹介している。(ノート・発表)</p>	一斉

5 本時の学習（5/8）

（1）目標

<国語への関心・意欲・態度>

- ・登場人物の気持ちや場面について，興味をもって読もうとする。

<読むこと>

- ・会話文や叙述をもとに，じさまを助けるために暗い夜道を走り，医者様を呼びに行く豆太の気持ちを読み取ることができる。

（2）展開

時配	学習内容と活動	◆指導・支援 ○評価	資料等
2 1 3	1 前時までの学習を振り返る。 2 学習のめあてを確認する。 3 4の場面を音読する。	◆これまで作った「わたしのモチモチの木」で豆太の気持ちを確認する。 ◆豆太の気持ちを会話文などに注意しながら声に出して読ませる。 ○登場人物の気持ちや場面について，興味をもって読もうとしている。	
	医者様を呼びに行く夜の，豆太の様子や気持ちを考えよう。		
1 5	4 4の場面を一人読みをして，医者様を呼びに行く夜の豆太の様子や気持ちのわかる叙述や，じさまのの様子わかる部分に線を引き，そこから自分の考えをノートに書く。 ○じさまの様子 ・くまのうなり声 ・くまみたいに体を丸めてうなっていた ・じさまは，歯を食いしばってますますすごくなるだけ。 ○豆太の様子 ・豆太はじさまにとびついた ・ねまきのまんま。はだしで。 ・なきなき走った。 ・いたくて，寒くて，こわかったからなあ。 ・医者様のこしを，足でドンドンけとばした。	◆じさまの豆太に対する態度や豆太の性格，気持ちを思い起こさせる。 ◆じさまの様子が豆太の気持ちを変えさせていることに気付かせる。 ◆手がかりとなる言葉に線を引きながら，気持ちを考えさせる。 ◆豆太の服装など，様子確かめから考えさせるようにする。	
1 2	5 医者様を呼びに行く夜の豆太の様子や気持ちについて話し合う。 ・丸まっとうなっているじさまに気付いた豆太の様子や気持ち。	◆モチモチの木に灯がともっている様子も想像させる。 ◆教科書の絵からわかることにも着目させる。	

	<ul style="list-style-type: none"> ・峠の下り坂を走る豆太の様子や気持ち。 ・灯がともっているモチモチの木を見た時の豆太の様子や気持ち。 	<p>○じさまを助けたい一心で夜道に飛び出した豆太の気持ちを読み取っている。(ノート・発表)</p>		
1 1	6	モチモチの木から見た、本時の豆太の様子や気持ちを「わたしのモチモチの木」に書き、紹介し合う。	◆じさまを助けるために勇気を出した豆太の一連の行動と灯がともったモチモチの木を見た時の豆太の気持ちを考えさせる。	「わたしのモチモチの木」
1	7	次時の予告をする。	◆勇気と優しさで怖さを克服した豆太が、翌日、元気になったじさまを見てどう変わっているかを想像させる。	

6. 板書計画

モチモチの木

齋藤 隆介

医者様をよびに行く夜の、豆太の気持ちを考えよう。

山の神様の祭り
一人の子どものしか見られない

勇気

豆太
こわいたすけたい
どうしよう・・・

ひがついた

4の場面のモチモチの木から見た豆太への気持ち・メッセーじ

豆太

わあ、きれいだ。
じさまが言っていたのはこれか。
勇気があれば何でもできるんだ。



モチモチの木・関連図書

	書名	著者名	出版社	分類
1	花さき山	斎藤隆介	岩崎書店	9
2	半日村	斎藤隆介	岩崎書店	9
3	火の鳥	斎藤隆介	岩崎書店	9
4	猫山	斎藤隆介	岩崎書店	9
5	ひばりの矢	斎藤隆介	岩崎書店	9
6	ユとムとヒ	斎藤隆介	岩崎書店	9
7	ソメコとオニ	斎藤隆介	岩崎書店	9
8	かみなりむすめ	斎藤隆介	岩崎書店	9
9	ふき	斎藤隆介	岩崎書店	9
10	ひさの星	斎藤隆介	岩崎書店	9
11	モチモチの木	斎藤隆介	岩崎書店	9
12	ちょうちん屋のままッ子	斎藤隆介	理論社	9
13	八郎	斎藤隆介	福音館書店	9
14	三コ	斎藤隆介	福音館書店	9